



- よく考え、進んで学習する子
- 思いやりの気持ちをもち、仲良くする子
- からだをきたえ、粘り強く努力する子

なりたい職業ランキング

校長 三ヶ島 誠一郎

校内の廊下には児童の書き初めが飾られています。1月に学校公開がないので、時期をずらして掲示しています。今月の学校公開でご覧いただき、各ご家庭でも子供たちの頑張りをほめてくださったと思います。また、節分にちなんで「〇〇鬼をおいだそう！」という子供たちの掲示物を目にしました。書き初めにしても、〇〇鬼にしても、掲示物を見ながら、自分自身も子供に負けないように励まなければいけないなあという気持ちになります。

さて、東京大学社会科学研究所とベネッセ総合研究所が共同で行った調査をもとにまとめた小中高校生の「なりたい職業ランキング」があります。2024年に調査され、昨年、公表されたものですが、どんな職業が上位だと思われますか？実は「教員」が高校生で1位、中学生でも「プロスポーツ選手」とならんで1位、小学生では3位とほぼ一番人気という結果になりました。正直、この結果に大変驚きました（ちなみに2015年の調査でもほぼ同じような結果であったそうです）。

このところ、教職員の不祥事や「教員はブラック産業」ということばかりクローズアップされてきた印象が強く、残念な気持ちでいることが多くありました。そんな中、子ども達に魅力的な職業として映っていることは純粋にうれしく、また自分自身、やる気をかき立てられました。

このような結果が表れた背景には、多くの子供たちにとって教師は、家族の次に身近な存在だからかもしれない感じました。

自分自身教師を目指した背景には、小学生の時に担任してもらった男性の先生の印象が強く、「あの先生のように、かっこよくて頼りになる人になりたいなあ。」という憧れがあったことを思い出します。

一方、心配なアンケート結果もあります。それは「なりたい職業がない」と答える小中高生の割合が一定数いるということです。ある調査では5割以上という報告もあります。また他のアンケートでは、実際に仕事に就いて働き始めた20代の7割が「仕事における将来の夢やビジョンがない」という結果であったという報告もあります。

今、先行きが不透明な時代といわれています。確かに長期的な展望をもつことが難しくなっている気もします。でもそんな中でも、まず、子供たちに「こんな人になりたい、こんな仕事をやりたい」という夢をもってもらい、その夢の実現に向かって励んでほしいと思います。

そして、校長としては「将来、先生になりたい」というお子さんが増えるように、子ども達にとって憧れの存在である先生方が周りにたくさんいるような学校になるよう、励んでいきます。

